

在宅での生活継続が基本

Putting Your Main Focus on Sustaining Yourself at Home



避難所への受け入れや物資の配布は、倒壊・流出・全焼などで自宅での生活が不可能となった人が優先される。自宅の安全性に問題が無いようであれば、プライバシーが確保され、共同生活によるストレスの無い在宅での生活継続が望ましい。日頃から、飲料水、食料、携帯トイレの備蓄、ライフライン途絶への備え、家具・家電の固定を心がけよう。

在宅での生活継続の可否を調べる「応急危険度判定」

応急危険度判定は、地震によって被災した建物の安全性を応急的に調べ、余震などによる建物の倒壊や外壁の落下といった危険性がないかどうかを判定します。

調査は、被災自治体の要請を受けて応急危険度判定士が実施します。判定士は建物の外観を目視で確認して3段階で判定、危険「赤」、要注意「黄」、調査済「緑」のステッカーを建物の見やすい場所に表示します。

調査済「緑」という判定は、建物が使用可能であることを意味しており、在宅での生活継続が可能です。



応急危険度判定結果	
危険 UNSAFE	
◆この建築物に立ち入ることは危険です ◆立ち入る場合は専門家に相談し、応急措置を行った後にしてください	
建築物名称	
注記:	
整理番号	
判定日時 月 日 午前・午後 時現在	
	災害対策本部 電話 -

応急危険度判定結果	
要注意 LIMITED ENTRY	
◆この建築物に立ち入る場合は十分注意して下さい ◆応急的に補強する場合には専門家にご相談下さい	
建築物名称	
注記:	
整理番号	
判定日時 月 日 午前・午後 時現在	
	災害対策本部 電話 -

応急危険度判定結果	
調査済 INSPECTED	
◆この建築物の被災程度は小さいと考えられます ◆建築物は使用可能です	
建築物名称	
注記:	
整理番号	
判定日時 月 日 午前・午後 時現在	
	災害対策本部 電話 -